

知事と区市町村長との意見交換（八丈町）

令和1年10月29日（火）

15時00分～15時20分

○行政部長 では早速ですが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 まずは台風15、19号と相次いで大変な、これまでにない強靱な台風が過ぎて行ったかと思えます、爪痕を残しながら。まずは御見舞いを申し上げたく存じます。そういう中で本日お越しいただいて二度目、出直してお願いして恐縮でございます。

冒頭、それぞれ住居の一部損壊による建物被害等については、既に承知をしているところでございまして、都としましてもできる限りの支援を行ってまいりますので、その点まず申し上げたいと思えます。

そしてあとはこれからの長期計画を描くにあたって、八丈の皆様方の御意見を伺うということで、お時間短いですがどうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 山下町長、お願いいたします。

○八丈町長 本当に日頃から、また台風の関係でも大変職員を派遣していただきまして、ありがとうございます。それも御礼なんですけど、まだ他にも2点ばかり御礼がありまして、昨日、自動運転の実証実験を八丈で2週間ぐらい実施するというところで、本当に島しょ地域における観光マースの実施を実験ということで八丈島で実施していただきまして、ありがとうございます。

八丈町においてもマイカー以外での新たな交通手段を検討するというところで、免許返納とか、そういう部分でも高齢者の移動対策等を考えるうえで、大変有意義だと考えておりますので、できれば引き続き御支援をいただきたいなという部分もございまして、よろしく申し上げます。

あと1つは、無電柱化の関係で知事さんが発表していただきまして、本当にありがとうございます。

大里地域の景観の関係、また防災上も非常に期待している部分でございまして、また、今回千葉なんかで倒木による被害ということで、八丈も坂上地区と坂下地区と分断されると。ですからそういう部分も今後、山にはなりますけどそういう部分で先行して無電柱化ができればなということもあります。

また、住民から知事さんが発表した後、その引き込み線の関係、個人の家庭の引き込み線のことを住民がどうなるんだろうと心配している部分もあります。ぜひその辺も御指導いただければと思います。

私は、今回の件では環境の関係を2点ばかりお願いしたいなと思えます。今、八丈町でも海外漂着物、海のごみの問題、またプラスチックの関係でして、八丈、漁業が一次産業中心ですので、そういう部分で将来に向けて、魚価の関係で非常に心配しておりますので、今から取り組んでいただければなという部分がございまして。

もう1点は八丈小島の環境保全と言いますか、八丈小島に昭和44年全島避難してから無人島になって半世紀、今年50周年。記念事業としては実施しなかったんですけども、いろいろ50年経って、いろいろ皆さんと共に考えようということで、講演会等を開いたわけです。ヤギにつきましては東京都さんのお世話になりまして、全頭捕獲したという部分がございますけれども、ヤギを捕獲した後、クロアシアホウドリが住みつくようになりまして、ぜひこれも観光の面も含めて保護しないとと思いますので、そういう部分も含めて、八丈小島がほとんどが公有地ということで、残念なことに一部私有地が残ってしまったということで、なかなか手付けられるという部分も含めて、自然というのは人が壊すこともありますけれども、やはり人が守っていかなければならない部分もあると思いますので、ぜひ小島の部分を今後どうしていくかという部分で、まちも当然考えますけれども、ぜひそういう部分も将来に向けて環境保全という部分で、八丈小島については、ヤギを捕獲した関係もあります、外来種がほとんど入っていないという部分で、この伊豆諸島の自然が残ってるのは八丈小島かなと思いますので、ぜひそういう部分も含めていろいろ小島の問題を考えていただければと思います。この2点だけでございます。

○知事 ありがとうございます。まずはこの無電柱化の方もいろいろ島の状況を見ながら、ラストマイルっていうか、一番最後の引き込みのところ等はいろいろ工夫が、どういう形ができるのか、またせねばならないのか等も確認していきたいと思います。

それから環境という点で、海洋プラスチックをはじめとするいわゆる海ごみでありますけれども、海洋生態系の深刻な影響が懸念されているということで、2050年には獲れる魚よりもごみの方が多くなるという、なんかそういう予測があるというぐらい、この自然に帰らないプラスチックがずっと海を漂うという光景を考えるだけでも大変な課題だと思います。

ちょうど環境大臣当時に中国とか韓国とか、そういった所から日本海側の所がちょうど海流によって辿り着いちゃうスポットみたいな所があつて、じゃあそれを誰が処理するんだろうっていうので随分議論したことがありますし、そもそも漂着ごみですから、原因者というのは他から来るので、ここは全体的な教育等も含めて、また八丈のような形、地理的な状況を考えますと、東京等関東圏から流れ出るその川等を伝わって出てくるごみが辿り着くケースが多かろうというふうに思います。

そういった点で、これからも都においても島しょ地域における地元の皆さんと連携しながら、まずは海ごみの回収事業を着実に実施をしまいたいと考えております。

それから八丈小島ですけれども、全島民の皆様が離れて50年という、ある意味節目の年だったということでございます。

鳥類、ゴルフならアルバトロスというのはぜひやってみたいものですが、アホウドリの繁殖も確認をされているということで、こうした貴重な自然を守っていくためにはどのようにすべきなのか、また自然環境の保護と観光資源としての利用のバランスを取ることも重要と考えております。

環境省とも連携しまして、八丈小島の自然環境を将来に渡り適切な保護が行われるよう

に、努めていきたいと考えております。

○行政部長 町長、いかがでしょうか。

○八丈町長 もう1点よろしいでしょうか。先ほど忘れたんですけれども、今回八丈でクリーンセンターを、ごみの関係でお話するんですけど、建て替えようとしているんです。以前、10何年前建てた時、14、5億円で建ったものが、今回積算すると規模が少なくなって50億円掛かると。庁舎が40億円だったのに、庁舎より掛かるという部分で、そういう資材代から人の問題ですごい高騰しているんですよ。

そういう部分を含めて、補助率は固定しているわけですがけれども、そういう部分で、まちの負担も多くなる部分がございますので、ぜひそういう部分も御支援いただければと思います。よろしく願いいたします。

○知事 新しいクリーンセンターの設置の件ですがけれども、まちの規模や用途に応じた施設や設備が導入されるように、都としましても計画の策定について技術的な支援を行ってまいります。また、整備にあたっては国と連携しながら財政支援を行っていくような考えであります。

島のごみ処理は本当は非常に難しく、将来予測等を誤りますと、後から燃料がだいぶ要ると運転が継続できないとか、景観をどうするかとか、沖縄もずっと担当しておりましたので、同じような状況だったと思います。

その辺のところ、計画とそれから設備がダイオキシン絡みの時からぐんと標準が上がってしまっているのは御存じのとおりで、一方で技術革新もあるのではないかと期待もするところです。

いずれにしても、よく話を伺いながら進めていけるような体制づくりということについては考えていきたいと思っております。

○行政部長 大丈夫ですか。まだちょっとお時間ありますけど、いいですか？

○八丈町長 大丈夫です。

○行政部長 大丈夫ですか。分かりました。折角いらっしゃった、いいですか？

○知事 農業被害は大丈夫ですか。

○八丈町長 農業被害は比較的になんか少なくてすみません。まだ八丈の場合は観葉植物ですので潮が上がってある程度日数が経たないと結果がわからない。

○行政部長 そろそろ意見交換を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。